〇〇すぎる漫才

佐溝貴史

［あらすじ］
漫才。

［配役］
A（男性）
B（女性）

明転

A　会社をやめたいんですよ。
B　唐突だねー。なんかあったの。
A　(大げさに)嫌なことがー！　あったのー！
B　というわけで、今週の裏ワザは「嫌な人があっという間にいなくなる裏ワザ――
A　聞いてくれないの？　その裏ワザめっちゃ気になるけど。まあいいや。
B　でやめてどうするの。
A　あの山で人を助ける人になりたいなーと思って。映画とか漫画あるじゃない。
B　海猿みたいな？
A　そうそう、それの山版。やまざるとかいって。
B　野生な感じするね。でもA優柔不断でしょ、究極の決断とかするんだよ。
A　そうか！　どっちの道だ！
B　ああ、小芝居にはいるのね。早速迷ってるじゃない！こっちが迷いやすい道です！
A　そうだな！　迷いやすいのはこっちだ！　でも要救助者の年齢、特徴を考えると、こっちの道という可能性も捨てきれんな！　もし、こっちの道だった場合、助けられるのは我々しかいない！　こっちだと誰かが見つける可能性もある！　それを考えるとこっちに行くべきなのかもしれんな！　よし！　そうしようか！
B　それならばこっちですか！
A　ああ！　だが、圧倒的に迷い安いのはこっちのルートだ、とすればこっちか！
そもそもこの山に迷い込んだのか？　隣の山という可能性はないか？　ヘリを呼んだほうがよかったんじゃないか？！
B　じゃあヘリ呼びますね。
A　まて！　勝手にヘリを呼ばれてあとで高額の請求が来た場合の向こうの気持ちも考えないとまずいぞ！　ほんとにいいのか！　持ち物は？　何持ってこうか？　ロープ要る？　着替えもいるかな？
B　全然だめだよ。迷いすぎだよ。
A　え、あ、そうかな。じゃあ、そもそも迷わないように俺ナビタイムの中の人になる。
B　また唐突な。だから優柔不断だと厳しいと思うよ。
A　できるよ。僕に任せておけば間違いないよ！新宿までの道はこっちだ！(ビシッと指差すが、両手で違う方向をさしている)

B　どっちだよ！
A　次の角をね、右か左かな！
B　頼りないわ！　次の道は右折禁止？
A　わからない！
B　堂々と答えるな！
A　こっちだ！（指差すが指がくねくね動く）
B　結局迷ってんのかよ！　向いてないよ。
A　なんかビシッと決めたいんだけどなー、じゃあ、アメ横の店員やる！
B　できなそーだな！
A　マグロの切り身！　１つ千円！　3 つで 1000 円！　にしようかな！　いや 4 つで 1000 円でも２つにしとこうかな！　じゃあえ３つで 1200 円！　はやめといて 1100 円！でいいのかな！
B　いくらだよ結局！　・・・迷いすぎ。
A　え？
B　もう向いてないよ、そういうの。
A　えーなにやろっかなー迷うなーやっぱ救助隊員かなー。
B　迷いすぎだよ。
A　迷いすぎる救助隊員、だよ
B　頼りなさすぎるよ。全然だめだよ。美人すぎる市議会議員みたいに言っても全然ダメだよ。
A　あー、〇〇すぎる〇〇ってちょっと流行ってるよね。
B　そうだ、わたし〇〇すぎる〇〇やってみたい。
A　声が低すぎるローラとか？
B　変だよ。ちがうよ、もっと人気出そうなやつだよ。
A　たとえば？
B　かわいすぎる B ちゃんとか。・・・ちょっとこれ言わされてるの何回やっても慣れないんだけど。
A　俺は何回言わせても楽しいんだよね、（客に）あ、俺台本書いてるんでね。
B　気持ち悪いなー。
A　気持ちいいよ。
B　・・・（びんた）
A　だめだもう正のスパイラルで何やられても気持ちいいわ。
B　やめて。
A　やめよう。僕の個人的な趣味をこれ以上晒すのはよくない。
B　なんだっけ。
A　かわいすぎる B ちゃん。
B　だからそれはもういいから。
A　えーじゃあ何がいいの。
B　大胆すぎる告白とか。
A　気になるな！　なに言い出すんだよ！
B　実はね、、、〇〇なの。〇〇さん。
A　他人を売るなよ！
B　頻繁すぎる尿意。
A　ハルンケア飲め！　年寄りか！
B　180 ㎝も身長があるようには見えなさすぎる佐溝。
A　やめろよ！　唐突だな！　すぎるつけりゃいいってもんじゃねーよ。

B　足が多すぎる牛。
A　気持ち悪いわ！
B　出すぎる杭。
A　打たれるわ！　まじめに何やりたいとかあんの？
B　・・・ない！
A　ないのかよ！　元気いいな！　うーん〇〇すぎる〇〇で売れるのは難しいかな…
B　あ、売れたかったの。
A　そりゃね、うりたいでしゅよ。
B　かちゅぜつの悪すぎ――
A　二人ともか！
二人　へっへっへ。
B　まあ、〇〇すぎると言えばね、次の題目ね、
A　〇〇ですね。
B　これも面白すぎるコントですね。
A　〇〇の本領発揮といったところですね。
B　ハードルを上げすぎる前説みたいになってますね。
A　本来の役目果たせなすぎる前説（笑）
B　悪いことしましたね。
A　じゃあうるさすぎる応援しよう。
B　なにそれ。
A　俺らが応援してあげて、にぎやかにしてあげるの。
B　あー次静かすぎるコントだから。
A　そう、そうすれば大丈夫でしょ
B　そうだね。
A　よし。あーあー（発声）
B　うんうん（のどの調子を整える）

暗転
次の芝居が始まる。A,B が応援する。うるさい。

A　フレー、フレー〇〇！
B　面白すぎるぞ〇〇！
A　わはは！　わはは！　わはは！
B　わはは！　わはは！　わはははは！
次　うるさい！

暗転